

FDのための情報技術研究講習会開催結果の概要

1. 開催日時：令和3年2月25日(木)
2. 開催場所：Zoom 会議室
3. 参加者：86名・49大学1短期大学（前年度34名・24大学）
4. 講習会の目標

どの分野でも必要となるICTの活用方法および教育改善手法の習得を目的として、オンライン授業の進め方、オンライン授業の教材作成、対話型PBL、ルーブリック作成、データサイエンス・AI活用教育、著作権問題などについて、基礎的な理解を深めて実践できることを目指した。

5. 実施結果

- (1) これまでは、対面での演習として実施してきたが、コロナ禍で教員の出張が困難なことから対面方式からオンライン方式で実施することにした。その際、演習方法や情報提供の工夫などにより、参加者の進捗状況の確認に不安を持ちつつ実施した。
- (2) 参加教員全員を対象とする全体会では、「オンライン授業の進め方」、「ライブ配信型授業の進め方」、「著作権のポイントと補償金」について説明を行った。参加された教員からは、「オンライン授業で学生がストレスを抱えている場合があり、配慮が必要なことが分かった」、「一年間分からないことだらけで行ってきたことを整理できた」、「新学期に向けてあれこれ試してみたい意欲が湧いた」、「オンライン授業を今後どのように発展・深化させるかヒントをもらった」、「著作権の話は毎年更新されるので今後も取入れて欲しい」などの感想が寄せられた。また、委員からは「参加者全員がオンライン授業の経験者であることから、何らかのテーマを設定してディスカッションする方法も今後の検討として考えられる」との意見があった。
- (3) ワークショップの達成度を以下に掲載する。

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① ルーブリック	2割	7割	1割(1人)
② パワーポイントのオンライン教材作成	3割	7割	
③ フォーラム型PBL	2割	7割	1割(1人)
④ Zoom	2割	8割	
⑤ 画面録画の教材作成	2割	6割	2割(2人)
⑥ データサイエンス・AI活用授業	4割	6割	

- (4) 以下にワークショップ参加者からの特徴的な感想と運営委員の意見を紹介する。
 - ① ルーブリック：「ルーブリックの理論的な背景から具体的な作成方法が習得できた」、「他の先生のルーブリックが大変参考になった」、「ルーブリック専門教員の指摘等が欲しかった」などの感想があり、委員からは、「作成等の時間が十分とれなかったこと」、「オンラインのため理解度・満足度が十分把握できなかったこと」が指摘された。
 - ② パワーポイントのオンライン教材作成：「パワーポイントで動画を作成・利用しているが、勉強し直して良かった」、「YouTubeへの抵抗がなくなった」、「講義動画作成のコツが分かった」、「目標とした画像付きの長い教材作成が分かった」などの感想があった。
 - ③ フォーラム型PBL：「教員がファシリテータに徹する授業の進め方を講義科目に適用できないか検討したい」、「教員個人のネットワークがないと難しそうに感じたが構築方法は参考になった」、「ポイントを議論するなど意見交換の中からアイデアが生まれるような研修運営にしても良かった」、「ツール等の体験も有益だった」などの感想があった。
 - ④ Zoom：「早速4月からとりいれたいことがたくさんあった」、「良く分からなくて使えなかった操作が理解できて良かった」、「グループ活動の方法が学生目線で体験できて勉強になった」、「細かい勘どころのヒントをたくさんもらった」などの感想があり、委員からは、「参加者の多くはZoom利用があり、基礎的な部分の説明は省略しても良かった」との指摘があった。
 - ⑤ 画面録画の教材作成：「PC画面全体の録画ができることが分かり、様々な動画作成に活用できると思った」、「オンライン授業でどのように教材を活用・工夫するのか知りたかった」、「Macユーザには他のツールがあるので物足りない」などの感想があった。
 - ⑥ データサイエンス・AI活用授業：「私立大学文系の広範な取組みを教えてもらい良かった」、「データサイエンス・AI活用人材の養成が重要であることが理解できた」、「文系の学生に如何に興味を持たせ学ばせるかの工夫が参考になった」、「タイムリーな内容で今後のAI活用授業の検討に役立つと思う」などの感想があった。